

下野田在住。退職後、木の根などを再利用した作品作りを始める。作品製作は木と対話しながら進めるという黛さんに、お話を伺いました。

がんばる人は顔に出る



木との対話で 生まれるアート

No.16

黛 智夫 さん

黛さんのお宅には、大小さまざまな木のアートが飾られています。その作品は、それぞれの木の特性が生かされ、暖かい色合いを出して輝いています。黛さんが、作品製作を始めたのは、退職後のこと。もともと塗装業を営んでいた黛さんは、木材に親しみをもっていました。そんな中、山師をしている友人が、燃し木として分けてくれる木に魅力を見いだしたのが製作のきっかけになりました。それからは、山菜採りなどの折に、朽ちかけた木の根など、

味わいのある木を拾っては作品として再び命を吹き込んできました。転がっている木を拾ってくるので、木の種類は様々。ケヤキや桑、ナラの木、もみじなど気に入ったものなら何でも扱います。また、特に面白い味わいを見せるのが、アリなどに食われたり、コブを持った木など。これらは丹念に磨かれることによって、自然が生み出したアートとなるのです。その工程は、まず「木」本来の姿を取り戻すため水に浸し、やわらかくなってきたら優しく汚れを落とします。剥離剤を塗って乾かし、ニス塗りやヤスリがけを3回ほど繰り返しツヤを出していきます。こうして輝きを取り戻した「木」は、アートとして生まれ変わります。黛さんは、作品作りについて「材料になる木が、すべて教えてくれるのだ」と語ります。木の良いところを引き出すことが、もっとも美しい形になる。自然とのコラボレーションを楽しむ黛さんは、これからも魅力的な木と出会える限り、ゆつたりのおんびり作品作りを続けたいと語ってくれました。

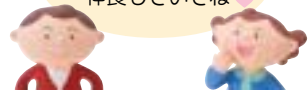
わが家の愛ドル



樋口 恒心くん 平成15年12月14日生まれ
月南 ちゃん 平成17年10月14日生まれ

•メッセージ
いつまでも
仲良しでいてね

直人さん 和枝さんの長男・長女（第4区）



新樹土曜会

文芸よしおか

水底に白き鱗ゆれ葦の角 市内 一江
餅つきや杵をもつ子に手をそへて 河本 松江
石段に緋毛氈のべ雛びより 木内 祐子

広報よしおか vol.193

発行：吉岡町役場 編集：企画財政課
URL http://www.town.yoshioka.gunma.jp
印刷：松本印刷工業株式会社

群馬県北群馬郡吉岡町下野田560番地 ☎0279(54)3111(代表) FAX 0279(54)8681

